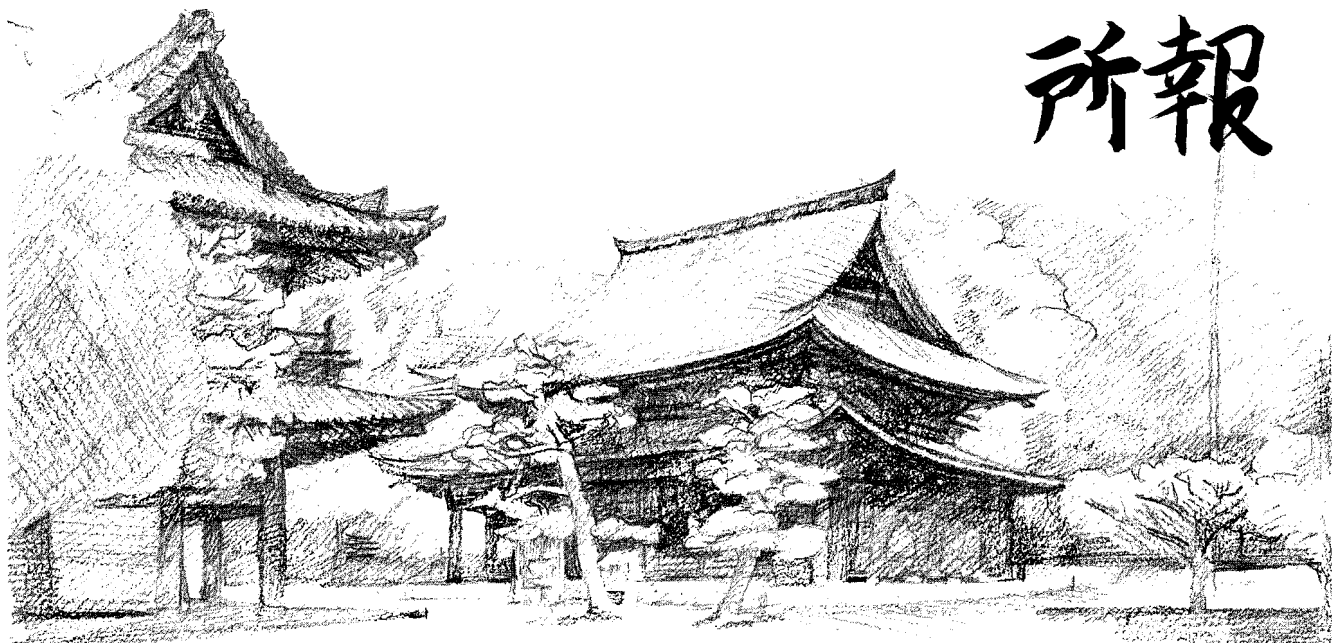


# 所報



平成16年2月



## 授業研究と教師の成長

日本女子大学教授 澤本和子

筆者が授業研究を始めたのは、とても単純な動機による。それは授業が下手だったからである。そして自分で自分の授業をふり返る研究を始めた。これが今日の「授業リフレクション研究」となった。

授業リフレクション研究では、自分で自分の授業をふり返る「自己リフレクション」を大切にする。そして、仲間や専門の研究者と意見交換する「集団リフレクション」と、信頼できる聞き手（メンター mentor）と意見交換する「対話リフレクション」も使う。ふり返りの最後は、自己リフレクションでまとめ、もし次に同じ授業をするとしたら、どこを、どう改善するかを明らかにする。これを再設計といい、重視する。

ひとりで始めた研究だったが、幸い素晴らしい先輩や仲間に恵まれ、今は東京都、山梨県や神奈川県など、各地に志を同じくするネットワークが育っている。研究を進める過程で、子どもの話を的確に受け止めるところに、授業における教師の役割があることがはっきりした。そして、教師のコミュニケーション能力と、人間理解能力、文化財（教材）を理解する能力の三つ

を、個々の子どもの発達を中心に組織する力が、教師の授業実践力の柱になることが明らかになった。

教材研究も、指導案作成も、生きた子どもに引きつけて、生きた「知」を求めて教室で語り合うための努力であり、教室でなければ生み出せない「知」を創造し、「感受性」を磨くための努力の一部である。教師は教室で子どもと向き合い、真剣勝負をする。子どもも本気で、考え、工夫し、打ち込む。そして子ども同士で磨き合い、助け合い、学ぶ喜びを分かち合う。その緊張と熱中を経て、学ぶ喜びや学ぶ努力の甲斐があると感じられるようにする。こうした「確かな学び」の手ごたえを、教師が子どもと協力して教室の学びで保証することで、学校は来る甲斐のある場となり得る。

筆者の授業研究体験は、授業研究者としての鍛錬という意味に加えて、素晴らしい教師たちとの出会いと、人生の宝といえるネットワークの形成という贈り物を与えてくれた。イギリスやカナダのアクションリサーチを進める教師たちと交流すると、不思議なことに、彼らも同意見である。絆は海外にも広がっている。

### もくじ

○巻頭言 .....	P.1
○研修講座だより(3) .....	P.2~3
○教育情報の紹介・コラム .....	P.4

○教育関係資料の紹介③ .....	P.5
○教育センターひろば .....	P.6

# 研修講座だより (3)

## 情報教育講座

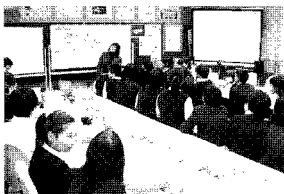
### 講座の主題

プレゼンテーション能力の育成と情報教育の実践

### 授業者・実践発表者

可部南小学校教諭 升本 公子  
己斐上中学校教諭 和泉 秀夫

### 講座の概要



現行の学習指導要領では、道具としての情報機器の活用と情報活用能力の育成が求められています。本講座では「プレゼンテーション能力の育成」に焦点を当てた授業と実践事例の紹介を行いました。

可部南小学校では、第6学年の児童が2年間の長期計画に基づいて、第5学年から似島小学校との交流学习を行っています。2年目に当たる今年度は、交流のまとめとして、国語の「ニュース番組を作ろう」の単元を発展的に取り扱い、テレビ会議等を用いて実施しています。講座では、両校の児童が作成したニュース番組を交換し、意見交流を行う場面を公開していただきました。児童は役割分担をし、事前に台本を作ってテレビ会議を行いました。「言葉のキャッチボールをしよう」を合い言葉に、児童は「相手の話をしっかり聞くこと」、「質問の想定をしておくこと」、「周りにいる人がアドバイスをすること」などの目当てを明確にして取り組みました。この実践で行った相手意識を持った情報の伝達を通して、児童の表現力の高まりを実感し、どのような内容にし、どのような表現方法を工夫すれば、よりよいニュース番組となるのかについて理解が深まりました。

己斐上中学校では、生徒の実態を踏まえ、技術・家庭科の「情報とコンピュータ」の領域の全35時間の指導の中に、受け手の状況を踏まえて情報を発信・伝達する力を高める10時間の指導を位置付けています。次のような指導の流れに基づいて実施した、10時間の指導について発表が行われました。

情報創造に対する意欲付け → テーマの設定 → 情報の創造 → 情報の受け止め → 相互評価 → 振り返り → 再構成 → まとめ

題材が生徒が発信したくなるような題材である必要があるため、「小学6年生に中学校のことを知ってもらおう」としたことで、さらに情報の創造の際には、表現方法がある程度限定し焦点化して、生徒が見出した観点を基に相互評価を行うことが有効であること、実際に発信する場を持つことが重要であること等の説明がありました。協議では、各校種の実態を踏まえた活発な意見交換が行われ、情報教育とは何なのかについて認識を深めることができました。

## 小・中学校特別活動講座

### 講座の主題

セルフ・エスティーム(自尊感情)の育成と  
学級活動の授業づくり

### 授業者

毘沙門台小学校教諭 新宅 祐子  
口田中学校教諭 山村 健一

### 講座の概要

上記主題のもとに、指導の実践ということで毘沙門台小学校と口田中学校において授業を公開していただきました。毘沙門台小学校の授業では、「ピカリ! 見つけた! 自分やあなたのいいところ」と題して、自分以外の他者・モノ(例えば、友人、家族、鉛筆、机、登り棒、ピアノなど)の立場から自分の向上したところを見つけ、自分に手紙を書き、互いに発表し合うという活動を取り入れられました。それは、①自分で自分の長所を引き出す、②他者から自分のいい部分を教えてもらう、③自分の弱さや欠点を自分の一部として認め受け入れていくとともに自分の長所を生活に生かす、という自己肯定の段階を指導計画の中に意図的・段階的に組み入れて展開されたものでした。



口田中学校の授業では、合唱コンクールでの取り組みを題材として取り上げられました。それは、自らが「頑張れたこと」、「あと一步のこと」など今までの自分の姿を振り返ることや、他者から「頑張りを認められること」でこれまで気付かなかった自分にも気付くことによって、自己受容や自己理解を進め、自己のセルフ・エスティーム(自尊感情)を育むことをねらいとしたものでした。

また、それぞれの実践は学級活動における評価規準や観察・学習プリントなどの評価方法を用いて、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四つの観点から個人や集団の変容を見取って教師の支援の内容を明確にした実践でもありました。

## 幼稚園教育講座

### 講座の主題

「人間関係」の保育の充実と遊びの場面での支援

### 講師

広島大学附属幼稚園 米神 博子  
副園長

### 講座の概要

「単なる集団的適応や、人とうまくつきあう方法の獲得ではない！」

これは、「『人間関係』のねらいを、どのようにとらえるべきか？」という「人間関係」の保育を創造するうえで根幹をなす、米神先生からの問題提起です。先生は、「人と調和して人間らしく生きていくための基盤となる力である」と規定されました。

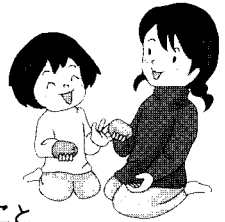
そして、「友だちとのこま遊び」などの事例をもとに、「人間関係」の保育の充実を図るために必要な教師の役割として、次のような点を挙げられました。

- 「人間関係」のモデルとしての役割…教師自身が自己を十分発揮しながら人と心を通わせる姿を示すこと
- よき理解者、共感者としての役割…温かいまさざして見守り、子どもの思いを受け止めること
- よき協力者、支援者としての役割…遊びがより楽しくなり「人間関係」が深まるよう、目当てを明確にしたり筋筋を示したりすること

併せて、次の2点についてその重要性を、「ぼくの方からごめんねって言えばよかった」などの事例をもとに、指摘されました。一つは、幼児への適切な直接的なかかわりを通して上記の役割を果たすとともに、保育者がかもします受容的な雰囲気・態度が重要であること。もう一つは、幼児の「人間関係」の育つ以下のプロセスや発達筋道をしっかりとりえ支援していくことが重要であること。

- ① 幼児が安定の場を見出している
- ② 幼児が安心して自分のやりたいことに取り組んだり、友だちとの出会いを楽しんだりしている
- ③ その過程で、幼児がさまざまなことに興味・関心を広げている
- ④ 同時に、幼児が自己を十分に発揮しながら友だちと心を通わせる喜びや、思い通りにならない葛藤を経験している

先生は、中でも「④」のような幼児同士の密度の濃いかわり・からみ合いが、上記の「人と調和して人間らしく生きていくための基盤となる力」を育むことに生きて働き、その場での教師の支援が大きく影響する、とまとめられました。



## 教養講座

### 講座の主題

子どもの詩の魅力

### 講師

詩人 川崎 洋

### 講座の概要

「子どもの詩の魅力」ということで、子どもの書いた詩を十数篇紹介され、詩の内容を一つ一つ解説されました。子どもの詩には、動植物をはじめとする有機物だけでなく、無機物を含めた地球上のすべてのものに対して、生命や感情あるものと見なす自由奔放なイメージの拡がりがあり、何気なく読むと、ハッとしてドキッとさせられる、一切の虚飾を排したストレートな言葉の躍動があるということでした。

ある作家が川崎先生の詩集を読んで次のように評しています。

「いくつかの詩を読んで、なぜだか私は泣いてしまった。美化されていない、けれど、どうにも美しい何かに触れてしまったためだ。」

このことは、子どもの詩には、大人の思いもつかない豊かでバラエティに富む空想と連想があふれており、このような子どもたちの自然なまっすぐな考え方や気持ち、読み手に心の温もりや感動を与えるということではないでしょうか。

講演の最後に、川崎先生は自らつくられた詩「たんぼぼ」について解説されました。詩の中で「おーい」とたんぼぼに呼びかける場面があり、誰がたんぼぼに呼びかけているのかという質問がたくさん寄せられたそうです。先生のお答えは「詩を読んで自分なりに考えたことが正解」でした。詩を味わうということは、体全体で詩の世界に興じることで心を豊かにすることではないでしょうか。



# 学校評価の充実に向けた校内研修 —組織的に・建設的に—

現在、各学校が自主性・自律性を発揮し、特色ある教育活動を創造することが求められています。そのため経営手法の一つとして、「学校評価」制度が導入・実施されています。そこで、学校評価の意義について、今一度考えてみましょう。

## 1 学校評価が充実すると・・・

学校評価は、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況及びその背景（教育諸条件の活用状況）について、いわゆる外部評価を含め、より計画的、組織的に点検・評価し、学校における教育活動を充実・向上させるための経営手法です。

学校評価が充実することにより、次のような状況となることが期待できます。

- 成果や課題が明確になり、新たな目標が設定できる  
→明確な目標・段階的な目標の設定へ
- 新たな目標の達成方法を見通すことができる  
→目的的に見通しをもった改善・充実へ

そのことで、

- 協働性が高まり、協力・連携体制が強まる
- 目的意識をもった改善・充実であるため、評価を行いやすく、充実のスピードが速まる
- 教育諸条件をより有効に活用でき、児童生徒への教育活動（分かる楽しい授業や、心を耕す指導の提供など）の質が高まる
- 児童生徒等と充実感や達成感などを共有できるとともに、教育に携わる者としての自己実現志向が高まる
- 児童生徒や保護者などの信頼関係を深めるとともに、協力・連携体制がより強まる

これらは「あるべき姿（状況）」ですが、学校評価を実際に計画的、組織的にを行い、「あるべき姿」との間を段階的に埋めることにより、教育活動の質は着実にステップ・アップすることができると思います。

## 2 「総合的な学習の時間」の充実を志向した学校評価に係る校内研修例

### (1) 校内研修に当たって ー必要なこと・ものー

#### 今一度明確にしておくこと

- ・各単元や学期における「総合的な学習の時間」のねらいの重点は
- ・児童生徒の学習状況を把握する方法は など

#### 準備しておく主な資料

- ・児童生徒の学習や指導に対する成果物・評価物
- ・保護者や地域社会の方などの評価や声
- ・指導記録（指導の時間・形態、人材・教材・教育機器の活用、活動支援のための経費など）

#### 学年会等を利用して検討しておくこと

- ・重点としたねらいと学習状況の差→「課題」に  
※その際、学習の成果物や児童生徒の学習や指導に対する評価物を参考にする。
- ・学習状況を生み出した背景→「問題点」に  
※その際、指導記録を参考にする。
- ・問題点を解決するための方法→「改善策」に

### (2) 校内研修の進め方

- ① 検討した上記のことについて、学年ごとに報告・発表する。
- ② 「問題点」や「改善策」について質疑を行う。  
※その際、問題点のみを指摘するのではなく、改善された事柄についても意見を出し合う。
- ③ 全員が自由に、「問題点」や「改善策」についてのアイデアを出し合い、それを整理する。  
※その際、自由に意見交換ができる雰囲気づくりに全員が努める。また、出てきた意見をKJ法やブレインストーミング法等を用いて整理する。

### (3) 校内研修の成果の生かし方

学年会等を利用して、早急に「改善すべきこと」「改善できること」について検討し、次回の実践に随時生かしていく。

### (4) 校内研修の実施時期

長期休業期間中等を利用して、計画的に行う。

### おわりに

校内研修の過程で、新しい発見が生まれ教育方法が拓かれることによって、これまで以上に児童生徒の思いや期待等に応え、成長を支援する教育活動を創造することができるでしょう。そのために今後、校内研修の充実はもちろんのこと、地域社会により開かれた学校評価が重要となります。したがって、その実行システムを構築し充実させることが必要となります。

## コラム

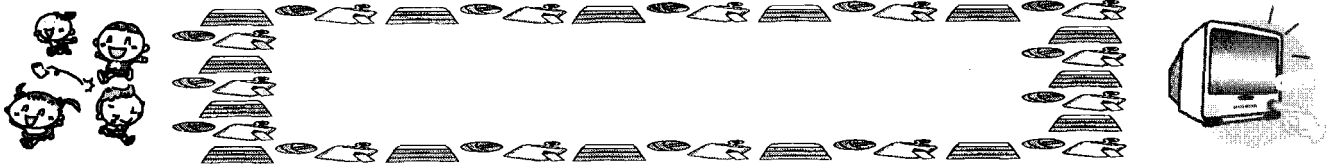
### 《奉仕活動・体験活動の評価及びその活用上の留意事項》

教育課程の編成、並びに学習指導の展開に当たっては、奉仕活動・体験活動を積極的に取り入れることによって、その特色を生かして学習への関心・意欲を高めたり、学習の満足感や成就感を体得させたりするなど、教育のねらいを効果的に実現していくことが求められています。奉仕活動・体験活動の評価及びその活用上の留意事項は、長尾彰夫氏（大阪教育大学教授）によると、次の四つに大別できます。

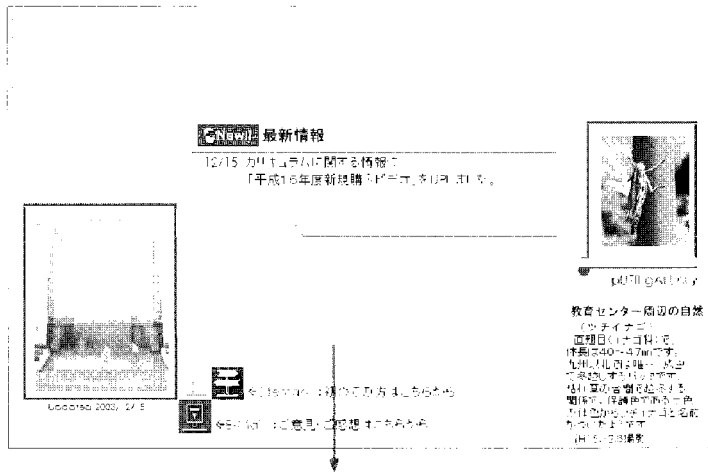
- ① 奉仕活動・体験活動を教育課程上のどこに位置付け、そして評価を行おうとするシチュエーションをどのように整理し、分析するのか。
- ② 子どもたちの奉仕活動・体験活動への自発的精神や自律性をどのように高めていくか。
- ③ 継続性・連続性や発展性をもった奉仕活動・体験活動をどのように展開していくのか。
- ④ 評価の記録をいかに累積し、それをどのように活用していくのか。

評価活動では、どこにおいてなされる評価なのかを明らかにした上で、奉仕活動・体験活動を子どもたちの自発性・自律性と一体化させていくために、評価の観点をまずはその子のなかから見つけ出し、活動の受けとめ方や意味付けを一人一人その子に即して、その子に委ねていくことが必要です。また、子どもの自覚を促し、励みの契機となるような評価をしていくことで活動の継続性・連続性や発展性が生まれていくこととなります。

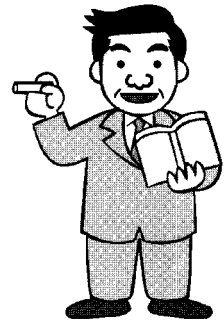
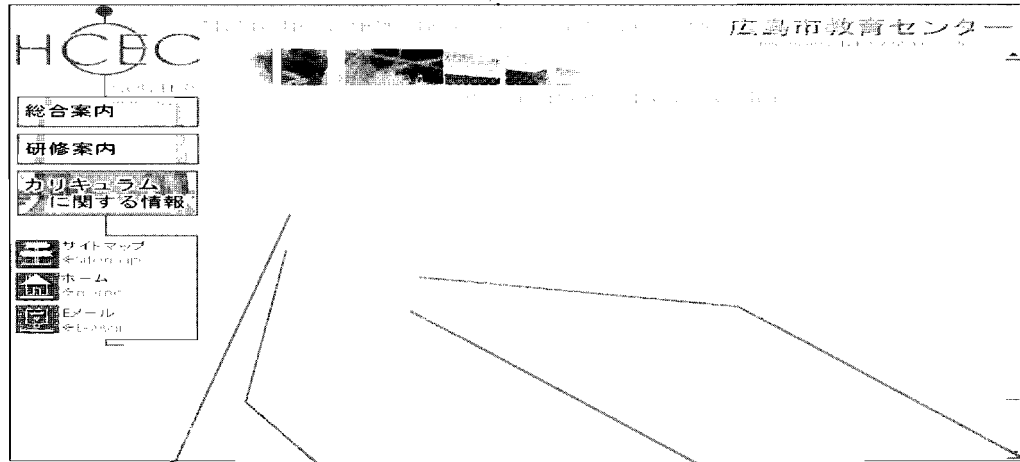
〈参考文献〉長尾彰夫「奉仕活動・体験活動の評価をどう工夫するか」『教職研修』2002年9月号（教育開発研究所）



広島市教育センターでは Web ページ (<http://www.hcec.ed.jp/>) 上で次のような教育情報の提供をしています。



授業に役立つ資料が  
きつと見つかります。  
ぜひ、アクセスして  
みてください。

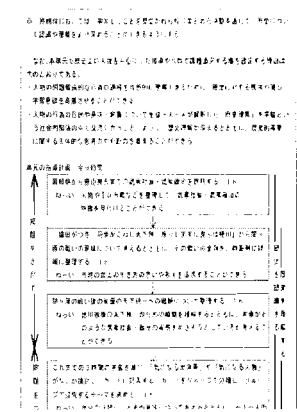
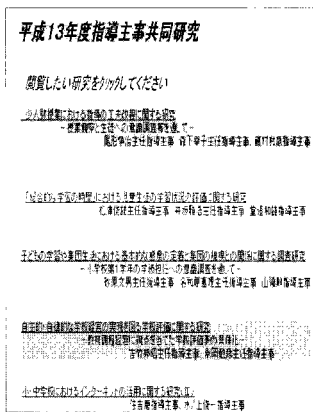
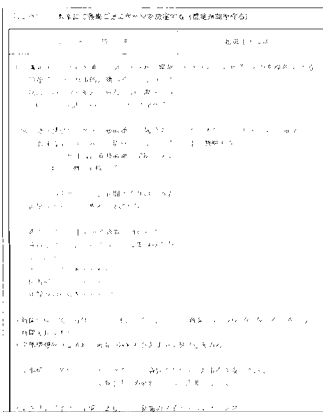
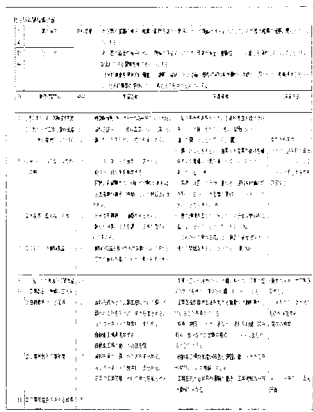


年間指導計画

総合的な学習、選択教科の実践事例

研究報告

学習指導案



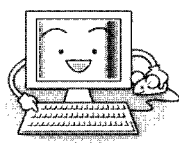
平成14年度に各学校で作成された評価規準を設定した年間指導計画の例を示しています。

平成11～13年度の総合的な学習の時間の活動計画例や選択教科の実践事例を公開しています。

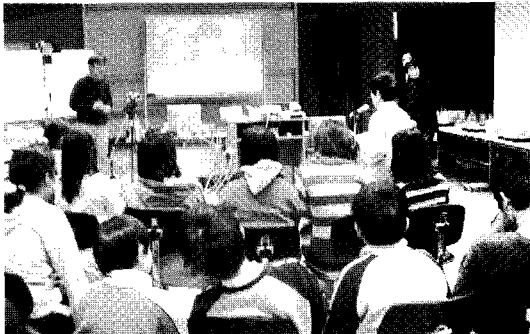
平成13・14年度に指導主事や教育センターで研修された先生方の研究成果を公開しています。

平成9～11年度の養・幼小・中・高等学校の学習指導案を公開しています。

この他にも教育に役立つ情報を公開していますので活用してください。また、各学校・園や研究会の研究成果物をぜひご寄贈ください。



### 次世代ITを活用した 未来型教育研究開発事業



井口明神小学校では、茨城県日立市立助川小学校の児童と、「ひろしまのピカ」を題材として、テレビ会議を活用した交流学习を行いました。

### 教育研究活動の支援



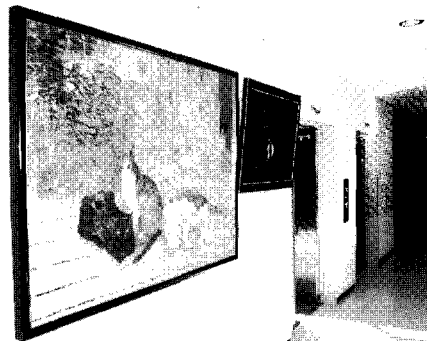
先生方の自主的な教育研究活動を支援する事業を行っております。本年度は13グループに活動奨励金を交付し、教育研究が進められました。  
※グループ名等については所報74号を参照してください。

### 初任者研修の実施



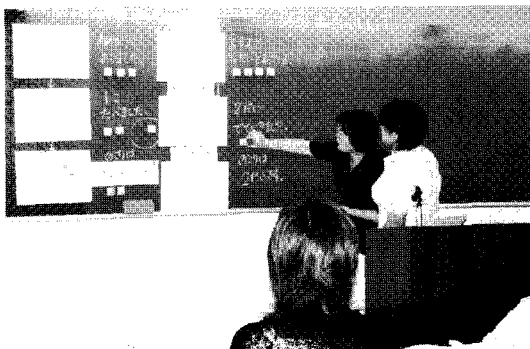
初任者の先生方が、似島での宿泊研修において地域清掃や介助体験、平和学習など地域の特性を生かした研修に取り組みました。

### 館内作品展示



広島市立学校の教職員の作品(絵画、写真、書、彫刻、工芸)を館内に展示しています。来館される方に豊かな文化の薫りとともに憩いや潤いを与えてくださいました。展示にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

### 10年経験者研修の実施



小・中・高等学校の先生方が、「学習指導」「生徒指導」等の実践的指導力アップを目指して研修に取り組みました。さらに夏季休業中の学級経営案や学習指導案の作成・模擬授業・事例研究においては、熱心な討議が展開されました。

### 編集後記

年度末のまとめや来年度の準備に向けてご多用のことと存じます。教育センターでは先生方の教育活動の充実にお役に立てるように、さらに努力していきたいと考えております。ご意見ご感想や記事等のご要望がありましたら、お寄せください。

題字 「所報」

広島市立竹屋小学校長 棟本 満喜恵  
表紙絵 「不動院金堂」

広島市立吉田中学校教頭 吉迫 清海  
編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号  
TEL (082) 223-3563 FAX (082) 223-3580  
E-mail: edu-center@city.hiroshima.jp  
Website: <http://www.hcec.ed.jp/>

広X 6 - 2003 - 28(3)